

一般社団法人日本粘土学会 2022 年度第 3 回理事会議事録

日 時：令和 4 年 7 月 23 日（土）15:05～17:10

会 場：Zoom 会議室

出席者：理事（20 名）小暮敏博、中川昌治、千野裕之、佐藤 努、會澤純雄、井出裕介、伊藤健一、
亀島欣一、黒田義之、笹井 亮、地下まゆみ、鈴木正哉、高木慎介、田村堅志、中戸
晃之、日比野俊行、万福裕造、毛利恵美子、横山信吾、鈴木憲子

監事（1 名）：月村勝宏

オブザーバー：藤村卓也

理事以外の常務委員（4 名）：川俣 純、森本和也、佐久間博、樽田誠一

事務局：川島朝子

成立確認：理事総数 27 名の半数 14 名、出席理事 20 名で理事会の開催は成立

審議事項

1. 2022 年度事業中間報告（資料 1）

資料をもとに各担当委員から報告があった。会員動向について事務局から説明があり、本日時点では昨年度末に比べて会員増であるが、退会を申し出ている会員を考慮すると今年度末では会員減となるとの報告があった。

2. 2022 年度会計中間報告（資料 2）

伊藤会計委員から資料をもとに報告があった。預かり金は会員資格停止者が入金をしてきたので来年度の会費とするものと、名誉会員への返金があるためだという説明があった。学会誌出版事業は赤字となっているが、学会活動のために必要なものなので許容範囲であるとの見解が示された。また、また一般会計が黒字だったときにそこから学術振興積立金への預入の金額について今後議論していく必要があるとの意見が示された。

3. 2023 年度業務委託契約案（資料 3）

事務局から資料に基づき詳細な説明があった。契約書は契約期間と本会の代表理事を変更し、また法令に従い第 17 条（反社会的勢力の排除）を追加した。契約金額算定基準書については、単価の変更はないが、送料を実費とすること、また役員交代にともなう費用の計上などが説明された。

4. 2023 年度事業計画案（資料 4）

資料に基づき各担当委員から説明があった。おおむね今年度を踏襲した事業計画となっている。また、佐藤常務委員長より第 66 回粘土科学討論会（仙台、産総研）は蛭名実行委員長のもとで準備が進んでいるとの報告があった。

5. 2023 年度予算案（資料 5）

伊藤会計委員から資料に基づき説明があった。おおむね今年度の実績を踏襲した予算案となっている。総会で承認される 1 ヶ月前に次年度の予算執行が始まるのは問題が無いかとの質問が出たが、予算は理事会承認事項なので、総会前に次年度の会計年度が始まっても問題が無いことが確認された。

6. 2022 年度日本粘土学会学会賞等選考結果（資料 6）

田村選考委員長より、資料をもとに報告があった。論文賞については、選考委員長が著者

となっているため、委員長を外して選考プロセスが行なわれたことが報告された。

7. 2022 年度日本粘土学会学術振興賞選考結果（資料 7）

佐藤常務委員長より、資料に基づき報告があった。今年度はオンラインでの国際学会への参加の可能性があるため、内規に従い実費が振興賞の上限（5 万円）を下回る場合は実費を支給することが委員会の総意として提案されたことが付け加えられた。

8. 2023・2024 年度日本粘土学会役員選挙結果（資料 8）

森本選挙管理委員より、資料をもとに報告があった。電子投票の導入により投票率が向上し、経費負担・作業負担も軽減されたとの分析があった。メールアドレスを登録していない会員がいるので、今後は確実にメールアドレスを登録してもらうことが必要である。また電子投票システムの案内やリマインドメールが確実に受信できるようにするため、迷惑メール対策ドメインの設定の案内などを事前に通知する必要があるなど、次回への改善点が提案された。

また会員数が減少している中で理事 26 名は多くないかとの意見があった。佐藤常務委員長より、それなりに人数がいることは異なる分野から均等に選出できることや多くの人に学会運営に参加してもらうというメリットもあると思うが、来年度以降理事会で議論して欲しいとの意見が出された。

9. 2022 年度総会の開催日時と形式について（資料 9）

佐藤常務委員長より、資料をもとに説明があった。議論の結果、対面のみで開催とすることとなった。

10. 研究グループの創立について（資料 10）

佐藤常務委員長より、2 件の設立趣意書が提出され、承認したい旨が報告された。

11. 粘土科学討論会

（1）第 65 回粘土科学討論会（資料 11）

笹井実行委員長より資料をもとに説明があった。島根大学としては島根県の方針に従うので、本日時点では対面のみでの開催を予定しているが、今後の状況により変更もある旨を会告の最初に記載した。

口頭およびポスターの両方での発表を希望している申込みがある件について審議した。それを妨げる規定はないが、今回は LOC の判断で口頭発表のみを認めることとした。

笹井実行委員長より、座長の依頼および講演賞の審査員の依頼について質問があり、座長については LOC、講演賞の審査員については各賞選考委員会が選出するとの説明がなされた。また講演要旨集の公開日は LOC の決定事項であることが確認され、昨年は前日であったが、本年は移動日を考慮して学会開催の前々日である 9 月 5 日とし、会告に載せることとした。

（2）第 65 回粘土科学討論会シンポジウム（資料 12）

田村企画委員長より、資料をもとに説明があった。4 番目の講演はオンラインで行なわれていただく予定であることが示された。

12. その他

特になし。

以上、審議の上、承認された。

報告事項

1. 入退会に関するホームページの更新資料

映写資料と共に、事務局川島さんから変更案について説明があった。

2. 退会届・シニア会員申請書の様式

3. その他

次回以降の理事会への申し送り事項として以下の事が取り上げられた。

- ・会計年度の関係で、討論会に会員資格で発表するには2年分の会費を払うことになる。学生にとっては負担となるので、今後議論が必要である。
- ・討論会の運営について、今ある申し送りは法人化される前なので、現在の状況に合っているかなどを精査する必要がある。今後の討論会開催方法について早急に議論する必要があるので、次回の審議事項とし、第66回粘土科学討論会の蛭名実行委員長にオブザーバーとして出席をお願いする。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、代表理事及び監事がこれに記名押印する。

令和4年7月26日

一般社団法人日本粘土学会 理事会

代表理事（会 長） 小 暮 敏 博 ⑩

代表理事（副会長） 中 川 昌 治 ⑩

監 事 月 村 勝 宏 ⑩

監 事 志々目 正 高 ⑩